

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475000731	事業の開始年月日	平成14年12月1日
		指定年月日	平成14年12月1日
法人名	有限会社ワーカーズクラブ		
事業所名	グループホーム秋桜の里		
所在地	(210-0847)		
	川崎市川崎区浅田2-17-20		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果 市町村受理日	令和4年1月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の尊厳を重視し共同生活でも「個」を重視し、その人らしく当たり前の生活が日々繰り返されるようにスタッフ全員で支援しています。また、共同生活であるためみんなが一人のため、一人がみんなのため、スタッフも一緒になって安心して楽しく笑いの絶えない居心地のいい環境で暮らし続けていただけるようご利用者同士、スタッフも含め良好な関係を築いていけるよう支援しています。ご家族様と同じ思いで寄り添い、時間を共有し日々の暮らしの中から一つでも多くの楽しみを見つけ思い出を残していただけるよう思いを受け止めながら生活していただいています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年12月10日	評価機関 評価決定日	令和4年1月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR「川崎」駅東口から臨港バスで20分、「浅間前」バス停から徒歩3分、個人商店が並ぶ商店街から少し入った所にあります。1階は事務所とアパートで2階にグループホームがあります。

<優れている点>

利用者の尊厳を守り共同生活でも「個」を重視し、その人らしく当たり前の生活が日々くり返されるよう全員で支援しています。本人以外はすべて環境であることを踏まえ常に利用者向き合い、自己決定を尊重し、個々に複数の選択肢を提案し、それぞれが自由に意思決定を行いながら集団ではなく個々を大切にしたいケアを行っています。日常生活の中で利用者のできること、できないことの把握をし、できることは自分で行い、できない利用者の手助けをし「一人はみんなのために、みんなは一人のために」共に生活をする者同士という認識ができるように努めています。職員との関係も支援する側、される側という立場ではなく共に生活をするという意識で日々楽しく生活が送れるように努めています。

<工夫点>

キッチンも多くの利用者が調理に関わり、使いやすいようにカウンターテーブルを設置し、職員と一緒に調理ができるスペースを作っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム秋桜の里
ユニット名	グループホーム秋桜の里

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入口に理念を掲示し、地域密着型サービスの意義を職員全体で確認することにより、地域での生活の継続を重視し事業所と地域の関係性を大切にしたい理念を共有し実践につなげるよう取り組んでいる。	事業所理念は「利用者が地域での生活を継続し、共同生活でも「個」を尊重し、地域の関係性を重視し、当たり前の生活支援します。」という主旨です。理念は個々の職員が日々大切にしていることをみんなで出し合い文章化したもので、全員で共有し実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍により人との交流や地域とのつながりができなくなっている。	自治会に加入しコロナ禍前は地域の祭りや納涼祭、子ども神輿の休憩場所として地域の子ども達と触れ合っていました。現在はたまに散歩に出かけたり、少人数、短時間の面会をしています。室内では季節の行事や飾り物、季節の食べ物を味わっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍により地域の方とのかかわりや活動は行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、事業所からの活動状況の報告を行い、参加メンバーからの質問、意見、要望、助言を受け、双方向での会議となるよう取り組んでいる。緊急事態宣言発令中や感染拡大中は書面での報告となっている。	11月に地域包括支援センター職員、ケースワーカー、民生委員、自治会役員の参加を得て、運営推進会議を開催し事業所の活動や利用者の様子などを伝え、質問や要望を聞いています。次回はコロナ感染状況を見ながら1月の開催を予定しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	高齢者担当や生活保護課のケースワーカーと密に連絡を行い、生活の様子やニーズを伝え連携を深め利用者様の生活の質を高めるよう努めている。	福祉事務所の職員や生活保護課のケースワーカーと電話連絡を密に行うよう努めています。利用者の現状報告を行い、助言をもらい連携を深めています。コロナ関連の情報もメールで受け取っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	安全確保や危険防止を優先するケアではなく、利用者様の自由な暮らしの中での見守りを強化している。玄関も鍵をかけず自由に外に出られる環境にしている。また、定期的にミーティングにて指針の確認を行っている。	「身体拘束等の適正化のための指針」を整備しています。身体拘束廃止委員会は運営推進会議に合わせて開催しています。玄関は施錠せず抑圧感のないあたりまえの暮らしができるよう支援しています。職員研修は年に2回開催し、利用者が不快に思うことをしていないか、などを検討し身体拘束排除の意識を高めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々の暮らしの中での不適切な言葉かけ、不適切なケアとは何か？ミーティングで確認を行ったり、自己の対応を振り返り、職員間での意見交換を行うことにより気づきを持ち虐待防止に努めている。	管理者は「高齢者虐待防止法」について学び、虐待の原因ともなる職員の疲労やストレスの発生の予防に努めています。職員の自覚がないままの不適切な言動がないかなど自己の対応を振り返り、意見交換を行い、気づきにつなげています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見が必要なケースでは入居相談の時点で高齢者担当に相談を行っている。また、入居時に、日常生活自立支援事業の支援を受けているケースでは成年後見制度の利用に繋げ、進捗状況に合わせ職員に説明を行い理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要事項の説明を丁寧に行うと共に、重度化や看取りについての対応方針、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲についての説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナによりご家族の来訪の機会が無くなり意見や要望と直接うかがう機会が無くなっているが、管理者がご家族と個別にメールにて連絡をとっている。また、職員にも必要な内容についてはご家族の文章を開示している。	コロナ禍前は家族の来訪時に意見や要望を聞いていました。管理者は家族との信頼関係を重視し、個別にメール連絡を取り、個々の様子や実情を細かく伝え、家族の意向も聞いています。聞き取った家族からの提案は職員と共有し、運営に反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者が管理者を担っており、常に現場で職員と同じ目線で共に考えながら支援を行うことにより日常的に意見や提案を聞きできる限り反映させている。できないときは理念や、方針、制度等を説明し代替え案を一緒に考える様になっている。	管理者は職員と共に業務を行う中で職員の気づきを大切にして、意見を聞き共に考えています。職員会議や申し送りノートでも把握に努めています。できないことはなぜできないか理由を明確にし、代替え案などを一緒に考えています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回程度個別に面談を行い契約内容の確認や職場環境や人間関係等働様々な意見うかがう機会を持っている。	現場で職員の日々の努力を把握し向上心をもって働けるよう取り組んでいます。年に1回の個人面談では契約内容の確認、職場環境、人間関係、健康状態など、普段は話せないことなど意見を聞き、就業環境の整備の改善に取り組む努力をしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員に対しては、期間を設けマンツーマンのOJTの体制をとり、ご利用者様との関わり方、介護方法、記録の書き方等、事業所内での業務について丁寧な指導を行うよう努めている。また、研修案内等を回覧し、1人年1回程度は外部研修に参加できるよう努める	新入職員は1対1によるOJT体制で利用者との接し方、介護方法、記録の書き方、業務の指導をしています。パート職員を含め、年1回程度の外部研修に参加できる体制を作り、費用補助も行っています。資格取得後は給料に反映する制度もあります。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍のため外部の方とのかかわりは控えています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談があった時は、必ずご利用者様と面談を行い、心身の状況把握を行い、ご利用者様の思いに寄り添い、職員がご利用者様に受け入れて頂ける関係性を築くよう努めている。また、他ご利用者様との良好な関係作りにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居までの、ご利用者様とご家族様の関係性、今日までの経緯、ご家族様の思い等を、時間をかけて聴き、受け止めながら関係を築くようにしている。また、ニーズを探ることにより入居の必要性を明確にするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時、早急な対応が必要と判断された場合は、行政に相談等行いながら、可能な限り柔軟な対応を行っている。適切な対応のためニーズを明確にし、地域のネットワークを持ち、連携を保ち迅速に対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の暮らしの中で、ご利用者様の思いをや、不安、喜びを知り、共感し、理解するよう努めている。支援する側支援される側という立場ではなく、共に生活するという意識でお互いが協働しながら日々楽しく和やかな生活が送れるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの中で、可能な限りご家族様に関わっていただけるよう、入居相談時より説明を行っている。日々の暮らしでの気づきや出来事、ご利用者様の思いを細かくご家族様に伝え協力を得ながら一緒に支えていける関係づくりに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍のため外出や面会はできないが電話で話をさせていただき直接かかわりが持てるようにしている。	家族の協力で墓参り、正月など、馴染みの人との交流が継続できるように支援をしています。コロナ禍の今は電話支援や写真入りの手紙などで利用者の様子を伝え、馴染みの関係がとぎれないよう支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	マスクや感染対策ができない方が多い為観戦予防の観点から利用者同士の関わり合いは最低限度にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご家族と連絡を取っており相談等があった場合は代弁者として各所と連絡をとっている。また、ご家族にかわり申請や手続等の手伝いも行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々ご利用者様とかかわりを持つなかで、行動や表情、発する言葉等から思いを汲み取り把握するよう努めている。意思疎通が困難なご利用者様は、ご家族様、今まで関わってこられた方と、本人にとって何が最良なのかを一緒に検討している。	利用者日々の関わりを持つ中で、しぐさ、表情、言葉から把握をしています。一対一になる入浴、散歩、夜間に会話を多く持ち、思いを聞くこともあります。意思疎通の困難な利用者は家族や関係者から情報を得て、本人にとって最良の方法を検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居相談時の情報と、日々の暮らしの中で、ご利用者様の生の言葉から得られる情報、その情報を通してご家族様から得られる情報、それらを蓄積しながら、ご利用者様の全体像を知ることができるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様一人ひとりの生活リズム、できること、わかることを把握し、日々の暮らしの中で、やりたいことを支援しながら職員間で情報交換を行い全体像の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様、ご家族様に日々のかかわりの中で、思いや意見を聞きご利用者様の望む生活が可能な限り実現できるよう介護計画に反映させている。また、ミーティングの中で職員間での話し合いを行っている。	利用者の様子に変化があると漏らさず記録をしています。職員間で情報を共有し、日々の介護に即座に活かし、介護計画にも反映しています。2ヶ月に1回、全職員参加のミーティングを開催し振り返りや意見交換も行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○〇様の日という個々のケア記録に、ご利用者様の言葉、暮らしの様子、心身の状態、職員の気づきを記録し勤務開始前に確認を行っているが、記録を活かしきれず実践や介護計画に繋がっていないことがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様、ご家族様の状況に応じて、送迎や必要な支援は柔軟に対応を行い、それに伴い職員の勤務人数を増員するなど柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご利用者様が安心して地域で暮らし続けられるよう、民生委員と顔なじみの関係を作り、日々の支援や、協力関係を築いている。近隣の商店街では顔なじみの関係ができ日々の中から多くの配慮を頂いている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者様、ご家族様の希望を確認し医療を受けられることを基本とし、現在は協力医療機関の月2回往診を受けています。急な体調不良時等は医療機関へ連絡し臨時的往診や指示を仰ぎ必要な場合は職員付き添いの下、受診を行っています。	協力医療機関から月2回の訪問診療に加えて、臨時的往診も受けられる態勢となっています。夜間はオンコールで医療機関と連携がとれています。歯科医の定期訪問は月1回とし、義歯作成などは臨機応変に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関の医師、看護師と気軽に電話相談、情報交換が出来る関係性が出来ています、常にご利用者の健康状態や状態変化に応じた支援を行えるよう、協力医療機関と24時電話での相談が出来る体制を構築しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医と病状説明を含め話しをする機会を持ち、ご利用者の支援方法等に関する情報提供を行い、ご家族様との回復状況等の情報交換を行いながら、速やかな退院支援に結びつけている。また、入院中もこまめに訪問し、現状把握を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	その都度必要に応じ意思確認を行っている。重度化した際にホームの設備や医療体制に不安がある方は特養の申し込み等の支援を行っている。	終末期医療の方針は家族と話し合い決定しています。終末期を迎えたと医師が判断した場合には、協力病院に入院する体制が整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時に備えて、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。応急手当から、その後の連絡方法、対応方法等についても全ての職員が対応できるようにしている。また、管理者は近隣に住んでいるため5分以内に駆けつけられる体制になっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練、避難経路の確認、初期消火等の訓練を定期的に行い、消防署の協力を得て検証訓練を行っている。地域の協力体制については、町内会でのお願いしたり運営推進会議でお願いしている。ホームから徒歩5分圏内の小学校が避難所となっている。	水や食料の備蓄は、賞味期限に留意する目的で日常の調理にも使用し、常に新しいものに入れ替えるローリングストックを徹底しています。火災など、万が一の時は、町内会のメンバーが駆けつける体制になっています。火災訓練は年2回行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	支援が必用な時は、ご利用者様に意思確認を行い気持ちを大切に考えさりげないケアに努めている。ご利用者様、一人ひとりのその人らしい姿を大切に常に誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	利用者の希望に応じ、危険のない範囲で床掃除や洗濯物を畳んでもらうなど、利用者の意思を尊重した介護を行っています。また職員は、利用者の尊厳を傷つけることのない言葉遣いを常に心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの状態に合わせて、本人が意思決定しやすい言葉かけを行っている。状況に応じて複数の選択肢を提案しご利用者様一人ひとりが意思決定できる場面をつくるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの生活ペースを大切にし、ご利用者様の個に合わせた対応を心がけている。ご利用者様の希望を確認し、相談しながら外出したり等、個別対応に努めている。毎日ではないが職員の勤務人数を増やし柔軟な対応を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者様の、個々の生活習慣に合わせて本人の意向に沿ったスタイルを把握して一緒に決めている。また、季節ごとにご家族に確認の上、洋服の購入等の支援も行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を一日の大切な活動と位置づけ、ご利用者様と一緒に調理、盛り付け、片付け等を行っている。また、できる限り個々の嗜好を取り入れている。	定期的に行っていた回転ずし店への外出支援も、現在は自粛していますが、出前に変更し「楽しめる食」を大切にしています。下膳を行う利用者も多く、自分の食器は自ら洗い、一人ひとりが出来る行動を通して食べる楽しみに繋がっています。献立も職員のアイデアを反映し飽きのこない工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	主治医の指示により一人ひとりの健康管理、その日の体調等を考慮しながらカロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう、一日を通して必要量が摂取できるよう、記録し職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後洗面所にて口腔ケアを行っていただく。一人ひとりの力に応じた歯磨きの支援を行っている。義歯使用のご利用者様には、就寝前の口腔ケアで義歯を預かり消毒を行っている。協力歯科医療機関の歯科検診を行いました。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を可能な限り支援するよう努めている。排泄の確認表を使い、尿意の無い方も前回の排泄から時間を見計らい随時誘導を行っている。夜間も巡回時だけでなく個々のパターンで随時誘導を行っている。	昼間、夜間を問わず、利用者それぞれの排泄パターンを把握し声がけをしています。トイレに誘導し自立に向けた支援を行っています。就寝時を除いて、オムツを使用している利用者は少数となっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄確認表を活用し、便秘の状態を把握している。起床時の水分補給と食事内容、特に食物繊維の多い食材を使用したメニュー作りを行っている。暮らしの中から身体を動かすことの大切さを常に意識して活動性を高めるよう努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人一人の希望に沿って入浴していただいている。毎日入りたい方は毎日、入浴が嫌いな方は、職員の言葉かけや対応の工夫を行い入浴していただけるよう支援している。個々の身体状況に応じ福祉用具等を使用し快適な入浴が出来るよう努めています。	入浴時間、回数を固定化することなく、利用者のその日の気分に合わせて対応しています。夕方に入浴する利用者もいますが、職員の介助、見守り態勢が整えられ、利用者は安心・安全な環境で入浴を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動性を高め、生活リズムを整えるように努めている。夕方からの時間の過ごし方に配慮を行い、夕食後からの一人ひとりの就寝に向けてのリズムが安定するよう居室での過ごし方（温度や明るさ等）を工夫するように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬情報のファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。個別のお薬ケースで管理を行い、服薬時は手渡しを行うか、口腔内に入れ確実に内服されていることを確認している。医療専用のノートを作成し全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の心身の状況に合わせ生活の中で家事活動等に参加していただき役割を持ち集団生活の中で支えあいながら生活できるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍により行っていない。	コロナ禍前は近隣の商店街への買い物支援を行い、地域の人々と顔の見える関係が築かれていました。家族の支援のもと、外泊や旅行をする利用者もいました。	コロナ禍終息後は、施設近くの商店街に買い物に出かけることにより、地域住民との交流再開が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様の協力、理解を得て少額のお金を持っているご利用者様もいる。ご家族様よりお金を預かり、事業所で管理を行っているご利用者様も外出時にご自身で払って頂いたり、残金を定期的に伝える等の対応をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様や、親戚の方の協力、理解を得て電話をかけたり、かけてきていただいたりしている。日々の暮らしの中での言動で思いを把握し、職員からの声掛けを行うとともに、電話しやすい雰囲気づくりに努めています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様が多くの時間を過ごす共用空間はやや狭く感じるが、季節の行事を取り入れた飾りつけを季節ごとに行っている。キッチンは多くのご利用者様が調理に関われるようにし、生活感がある空間になるよう工夫している。	廊下には利用者が作った切り絵などの作品を飾っています。共有空間は採光もよく明るく清潔感を保っています。利用者のその日の気分に合わせて座席やテーブルの配置を変更したり、居心地よく過ごすことができるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	コロナ禍により利用者同士が集う場所は作っていない。独りでゆっくり過ごせるよう居室で快適に過ごせるよう職員間で検討している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものがご利用者様にとって一番安心でき、リロケーションダメージも少しは小さくなるのではないかと説明している。ご家族と相談しながらご利用者様が居心地良く過ごせるよう努めている。火気を使用するもの意外は制限はしていません。	転倒の危険性が少ない適度の広さの居室は、整理整頓をしています。自ら描いた絵を壁一面に飾っている利用者もいます。仏壇などの利用者にとって大切な物も置かれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの身体状況に合わせて、手すりの増設や、浴室の改修等を実施した。ご利用者様のわかる力を活かして生活していただくため、状況に合わせて、ミーティング等で職員間で話し合い安全、安心して日々活動が出来るよう環境の整備に努めている。		

2021年度

事業所名 グループホーム秋桜の里
 作成日： R4年 1月26日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ禍により面会制限を行っており、頻繁に来訪されていた方が2年近く面会ができない状態が続いている。	直接面会や話が出来なくても、ご家族、利用者お互いに様子がわかり関係が継続できる。	日常的な報告や相談、日常の様子などを知っていただけるようSNS等を活用し積極的に発信する。また、ご家族に対し連絡方法の希望を確認し、双方向によるコミュニケーションを図る。	3ヶ月
2	35	災害用備蓄は行っているが、定期的な確認や見直しができていない。	最低利用者、職員の食料、水、日用品、医療関係を5日分確保できる。	担当を決め、リストの作成と定期的なチェックを行う。また、個別の情報などは常に最新に更新する。	3ヶ月
3	40	コロナ禍により食事中の会話をしたり外食等に行く機会が無くなり食事を楽しむ機会が減っている。	食べる楽しみを継続することで健康で楽しく過ごすことが出来る。	季節ごとの食事、誕生日などの行事食を多く取り入れ視覚から食事が楽しめるよう器や盛り付け等を工夫する。また、食べるだけではなくメニュー作りから参加していただく	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月